番

二年

画数 12

筆順 一 ㇔ 平 釆 番

オン バン

クン

成り立ち

どうぶつの〝足あと〟のかたちをあらわした字です。けものののとおった足あとを見ますと、右、左、右、左と、きそく正しく〝じゅんばん〟にならんでいます。それで〝じゅんばん〟といういみをあらわしたものです。

また、「じゅんばんでしごとに〝当たる〟」ことを、〝当番〟といいますが、その〝当番〟といういみにもつかわれます。

使い方

▽すべりだいや、ぶらんこであそぶときは、みんなでじゅん番にならんで、なかよくあそびます。

▽ぼくは、こんしゅうのきゅうしょく当番です。みんなのおさらに、じゅん番に、パンやおかずをよそっていくのがしごとです。

熟語例

▽交番（おまわりさんが、本署からこうたいでやってきて、しごとをするところ。おとしものをとどけたり、みちをたずねたりするところです。）

▽火の番（火事にならないように、火のもとを見てまわる人）

▽番台（おふろやさんの入り口にある、たかい台。ふろだいをうけとったり、きものやはきものがなくなったりしないようにみはったりする人が、すわるところ）

▽番号（じゅん番を、すうじであらわしたもの）

▽番地（すんでいるところにつけた番号。ゆうびんをくばったり、人をたずねたりするときに、べんりなように、人のすんでいるところをこまかくくぎって、番号をつけたものです。）

父

二年

画数 4

筆順 ノ ハ 父 父

オン フ

クン ちち

成り立ち

手に〝斧〟をもったかたちをあらわした字です、でんきもガスもせきゆもないむかしは、木をつかったので、木をきることはかかせないしごとでした。そのしごとを先に立ってするのが〝父おや〟でしたから、〝ちち〟といういみをあらわしました。

それで、〝斧〟のことを〝斧〟といいます。〝父のだいじなどうぐ〟だったからです。

〔〝斧〟の〝斤〟が、斧の形を表したものであるから〝斧〟は〝父の斤〟という意味で作られた道具であったかもしれない。とにかく〝父親の象徴〟であったことは間違いない。父親もフ、斧もフ、であるから。〕

使い方

▽あした、わたしの学校で父母かいがあります。

▽わたしの父は、まいにち、かいしゃにいきます。かえってくると、わたしとあそんでくれます。でも、まいにちではありません。

▽むかし、あるところに、父おやと一人の男の子がすんでいました。父おやは、たいそうまずしかったうえ、つまをなくしていましたので、男の子は、うちのしごとや、ちょっとしたてつだいなどをして、父おやをたすけて、はたらきました。

熟語例

▽父母（父おやと、母おや）

▽父子（父おやと、子ども）

▽父祖（祖先。ごせんぞさま。おとうさんの、おとうさん、そのまたおとうさん、というふうに、むかしにさかのぼって生きていた人たち。「この、たいせつな父祖からのとちを、まもらなければならない」などといいます。）

▽祖父（おとうさんの、おとうさん。おじいちゃんのことです。）